

# ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	羽石 英里
主な担当科目	音楽療法テクニックⅡ,音楽療法テクニック特別演習Ⅱ,音楽療法文献講読研究Ⅰ,音楽療法文献講読研究Ⅱ,卒業論文(原著講読含む),音楽芸術運営特別演習②,音楽芸術運営基礎演習,博士特別運営研究①,博士論文演習①
シラバス	次ページをご参照ください
2022年の教育目標・授業に臨む姿勢	引き続き、学部・大学院における学生の多様化、とくに社会人学生や留学生などが増えてきた状況をふまえ、学生それぞれが自身の経験や特性を肯定的にとらえることができるように授業展開する。
2022年の教育に関する自己評価	音楽療法を学んできた学生、社会人あるいは対人援助職を経験した学生などが、それぞれの経験と特性を発揮できるように意見を表明したり、問題解決を図る方法を提案できる機会を設けた。
2022年のFD活動に関する自己評価	多様な学生に対する他教員の様々な工夫や考え方、コロナ禍でのポジティブな対応をきいたり、こちらからも発言することで情報交換をすることができた。学内組織FD研修会ではさらに個別の学生事例についても意見交換ができた。全体でのFD研修会ではファシリテータを務めた。
授業改善のために取り入れた研修内容	コロナ禍や戦争など、いままでにはない社会状況の中でも、変化に柔軟に対応し、マイナスをプラスに替えていく姿勢、情報リテラシーの重要性など、音楽療法士として、社会人として生きていくために心にとめておいてほしいことは、授業内で意識して伝えている。

科目名－クラス名

**音楽療法テクニックⅡ**

曜日時限

火 3時限

担当教員

羽石 英里

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験				授業内小テスト	
演習	1～	後期	1	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		
				0	0	0	80	20	100

教育到達目標と概要

音楽療法コース1年次必修科目で、実践的活動能力などを獲得するための科目である。  
 ギターはピアノ、キーボードと並んで、音楽療法の伴奏楽器としてしばしば使用され、音楽療法士のスキルを大きく向上させ、その汎用性を高める。本授業では、ギターの基本的な技術（楽器の扱い、調弦法、基本コード、右手の基本奏法など）、移調および弾き語りのスキルを、様々な楽曲を演奏することを通じて学ぶ。授業内小テストでは、筆記にて基本コード習得の確認を行う。学期末には、弾き語りをを行うことで、成果発表とする。

学修成果

学期末に行う成果発表を通じて、基本的なギタースキルと弾き語りの力を習得していることを示す。授業内テストを通じて、基本コードや移調に関する知識を習得していることを示す。

授業展開と内容

- 第1回 授業のガイダンス、ギターの経験についてのアンケート、ギターの種類ほか練習の心得
- 第2回 調弦の仕方、対象者にも使える簡易な左手の奏法（Easy CとEasy G7）、基本コードの説明
- 第3回 基本コード(A,E7,D,G,A7,C,D7,E,F,G7,B7,Em,Am,Dm)の習得①
- 第4回 基本コードの習得②、右手の奏法①（ダウンストロークなど）
- 第5回 基本コードの習得③、右手の奏法②（ダウンストロークなど）、弾き語り、コード弾きの応用
- 第6回 基本コードの習得④、右手の奏法③（ダウンアップなど）、移調、弾き語り
- 第7回 基本コードの習得⑤、右手の奏法④（シンコペーションなど）、移調、弾き語り、グループ歌唱リードの手引き
- 第8回 基本コードの習得⑥、右手の奏法⑤（ルートベースなど）、移調、弾き語り
- 第9回 基本コードの習得⑦、右手の奏法⑥（ルートベースなど）、移調、弾き語り\*グループ歌唱リードの曲目登録\*
- 第10回 基本コードの習得⑧、右手の奏法⑦（ルートベースの応用など）、移調、弾き語り
- 第11回 基本コードの習得⑨、右手の奏法⑧（アルペジオなど）、移調、弾き語り、 \*授業内小テスト（筆記）\*
- 第12回 音階、メロディ奏法・合奏①（2声）
- 第13回 音階、メロディ奏法・合奏②（メロディーとコード）
- 第14回 弾き語りの成果発表
- 第15回 弾き語りの成果発表 まとめ
- 第16回
- 第17回
- 第18回
- 第19回
- 第20回
- 第21回
- 第22回
- 第23回
- 第24回
- 第25回
- 第26回
- 第27回
- 第28回
- 第29回
- 第30回

履修上の注意

授業の速度は、習得の度合いにより調整する。学生によって開始時のギター・スキルに差があるので、評価は学生それぞれの上達の程度をもとに行なう。成果発表で

は、授業で学んだスキルを最大限に発揮しようとする積極性とチャレンジ精神を重んじる。個別にアドバイスを受けた場合は、事前にアポイントをとること。

---

#### 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

授業時間外にコードの復習や予習などの練習を行うこと。長時間の練習を間をあけて行うより、短時間でも頻繁に行ったほうが、演奏技術は身に付く。授業で習ったコードや奏法などを1回10-15分、毎日復習することが望ましい。小テストは授業内で答え合わせをしながらフィードバックする。成果発表は教員のコメントのほか、学生同士のフィードバック（ピア・クリティーク）も取り入れる。学生によるフィードバックについては、相手の良いところに注目しつつ、問題点を改善に導くコメント方法を指導する。

---

#### 教科書・参考書

参考書：愛唱名歌（野ばら社編・増訂版）改訂新版 歌伴のすべて ベスト905（改訂第8版 小森谷 清・島 由季 編集）

科目名－クラス名

## 音楽療法テクニック特別演習 II

## 曜日時限

火 3時限

## 担当教員

羽石 英里

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験				授業内小テスト	
演習	1～	後期	1	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		
				0	0	0	80	20	100

## 教育到達目標と概要

ギターはピアノ、キーボードと並んで、音楽療法の伴奏楽器としてしばしば使用され、音楽療法士のスキルを大きく向上させ、その汎用性を高める。本授業では、ギターの基本的な技術（楽器の扱い、調弦法、基本コード、右手の基本奏法など）、移調および弾き語りのスキルを、様々な楽曲を演奏することを通じて学ぶ。授業内小テストでは、筆記にて基本コード習得の確認を行う。学期末には、弾き語りを行うことで、成果発表とする。

## 学修成果

学期末に行う成果発表を通じて、基本的なギタースキルと弾き語りの力を習得していることを示す。授業内テストを通じて、基本コードや移調に関する知識を習得していることを示す。

## 授業展開と内容

第1回	授業のガイダンス、ギターの経験についてのアンケート、ギターの種類ほか練習の心得
第2回	調弦の仕方、対象者にも使える簡易な左手の奏法（Easy CとEasy G7）、基本コードの説明
第3回	基本コード(A,E7,D,G,A7,C,D7,E,F,G7,B7,Em,Am,Dm)の習得①
第4回	基本コードの習得②、右手の奏法①（ダウンストロークなど）
第5回	基本コードの習得③、右手の奏法②（ダウンストロークなど）、弾き語り、コード弾きの応用
第6回	基本コードの習得④、右手の奏法③（ダウンアップなど）、移調、弾き語り
第7回	基本コードの習得⑤、右手の奏法④（シンコペーションなど）、移調、弾き語り、グループ歌唱リードの手引き
第8回	基本コードの習得⑥、右手の奏法⑤（ルートベースなど）、移調、弾き語り
第9回	基本コードの習得⑦、右手の奏法⑥（ルートベースなど）、移調、弾き語り＊グループ歌唱リードの曲目登録＊
第10回	基本コードの習得⑧、右手の奏法⑦（ルートベースの応用など）、移調、弾き語り
第11回	基本コードの習得⑨、右手の奏法⑧（アルペジオなど）、移調、弾き語り、 ＊授業内小テスト（筆記）＊
第12回	音階、メロディ奏法・合奏①（2声）
第13回	音階、メロディ奏法・合奏②（メロディーとコード）
第14回	弾き語りの成果発表
第15回	弾き語りの成果発表 まとめ
第16回	
第17回	
第18回	
第19回	
第20回	
第21回	
第22回	
第23回	
第24回	
第25回	
第26回	
第27回	
第28回	
第29回	
第30回	

## 履修上の注意

授業の速度は、習得の度合いにより調整する。学生によって開始時のギター・スキルに差があるので、評価は学生それぞれの上達の程度をもとに行なう。成果発表では、授業で学んだスキルを最大限に発揮しようとする積極性とチャレンジ精神を重んじる。個別にアドバイスを受けた場合は、事前にアポイントをとること。

### 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

授業時間外にコードの復習や予習などの練習を行うこと。長時間の練習を間をあけて行うより、短時間でも頻繁に行ったほうが、演奏技術は身に付く。授業で習ったコードや奏法などを1回10-15分、毎日復習することが望ましい。小テストは授業内で答え合わせをしながらフィードバックする。成果発表は教員のコメントのほか、学生同士のフィードバック（ピア・クリティーク）も取り入れる。学生によるフィードバックについては、相手の良いところに注目しつつ、問題点を改善に導くコメント方法を指導する。

---

### 教科書・参考書

参考書：愛唱名歌（野ばら社編・増訂版）改訂新版 歌伴のすべて ベスト905（改訂第8版 小森谷 清・島 由季 編集）

科目名－クラス名

## 音楽療法文献講読研究Ⅰ

## 曜日時限

木 3時限

## 担当教員

羽石 英里

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
演習	1～	前期	1	0	20	0	80	0	100

## 教育到達目標と概要

大学院レベルの研究において、音楽療法分野の英語の専門用語に通じ文献の内容を深く理解することは、最先端の知識や技術を獲得するために欠かせない。当然ながら、修論論文も海外の研究情報を踏まえての執筆となる。本講では音楽療法の代表的な学術誌等の英語文献を用いて基本的な専門用語に親しむとともに、英語論文の構成や基本パターンに親しむ。また、その内容について臨床場面を想定したディスカッションを行う。なお、各回に講読する文献は、以下に示した学会誌以外からも、学生のニーズに沿った文献をとりあげる可能性がある。

## 学修成果

授業での発表やディスカッションを通じて、専門用語や文献の内容を深く理解していることを示すことができる。論文検索によって、自己の修士論文に役立つ内容の研究を適切に探しだすことができる。海外を含めた広い視野に立つ研究をすすめるための基礎力をつけることができる。

## 授業展開と内容

第1回	Introduction to review of English literature
第2回	Trends of research: Abstracts from Journal of Music Therapy (Children with disabilities) (1)
第3回	Trends of research: Abstracts from Journal of Music Therapy (Adults with mental disorders) (2)
第4回	Trends of research: Abstracts from Journal of Music Therapy (Elderly) (3)
第5回	Trends of research: Abstracts from Journal of Music Therapy (Rehabilitation) (4)
第6回	Trends of research: Abstracts from Journal of Music Therapy (Palliative care and other) (5)
第7回	Readings of Music Therapy Perspectives (1) (Children with disabilities)
第8回	Readings of Music Therapy Perspectives (2) (Adults with mental disorders)
第9回	Readings of Music Therapy Perspectives (3) (Elderly, rehabilitation)
第10回	Readings of Music Therapy Perspectives (3) (Elderly) (4) (Palliative care and other)
第11回	Reading of proceedings: WCMT/AMTA conferences in general (1)
第12回	Reading of proceedings: presentation abstracts selected by students (2)
第13回	Reading of articles in related journals (1) medical
第14回	Reading of articles in related journals (2) education
第15回	Summary of Reading Terminology List Submission
第16回	
第17回	
第18回	
第19回	
第20回	
第21回	
第22回	
第23回	
第24回	
第25回	
第26回	
第27回	
第28回	
第29回	
第30回	

## 履修上の注意

講読した論文の内容を自分自身の研究・実践に応用をすることを意識すること。ディスカッションでの積極性を重視する。Terminology Listを毎回更新し、最終回に提出すること。講読する英語の学術誌は受講者の学習のニーズに合わせて変更することがある。

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

必ず予習をすること。図書館やインターネットで論文検索をし、入手する。各回の授業終了ごとに、英語論文でのキーワードリストを作成し、学期末に提出する。

---

■ 教科書・参考書

ハンドアウトを適宜配付する。

科目名－クラス名

## 音楽療法文献講読研究Ⅱ

## 曜日時限

木 3時限

## 担当教員

羽石 英里

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
演習	1～	後期	1	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
				0	20	0	80	0	100

## 教育到達目標と概要

大学院レベルの研究において、音楽療法分野の英語の専門用語に通じ文献の内容を深く理解することは、最先端の知識や技術を獲得するために欠かせない。当然ながら、修士論文も海外の研究情報を踏まえての執筆となる。本講ではPub Med等の利用により、修士論文に関連した論文を適切に検索し分析し、その内容を読みとく。また、国際学会での発表のポイントやテクニックに触れる。原則として、授業内では英語を使用する。

## 学修成果

授業での発表やディスカッションを通じて、専門用語や文献の内容を深く理解していることを示すことができる。論文検索によって、自己の修士論文に役立つ内容の研究を適切に探しだすことができる。文献レビューのプレゼンテーションを通じて、文献の要点を適切にまとめ、わかりやすく発表することができる。他の学生の発表内容についても広い視野から意見を述べるることができる。

## 授業展開と内容

第1回	Introduction to readings of articles
第2回	Readings of articles selected by students (1) Children with disabilities
第3回	Readings of articles selected by students (2) Adults with mental disorders
第4回	Readings of articles selected by students (3) Elderly
第5回	Readings of articles selected by students (4) Rehabilitation
第6回	Readings of articles selected by students (5) Palliative care
第7回	Readings of articles selected by students (6) Miscellaneous
第8回	Readings of book chapters selected by students (1) Children with disabilities
第9回	Readings of book chapters selected by students (2) Adults with mental disorders
第10回	Readings of book chapters selected by students (3) Elderly
第11回	Readings of book chapters selected by students (4) Palliative care
第12回	Important points of presentation in English
第13回	Presentations of literature review by students
第14回	Presentations of students' research interests
第15回	Simulation of presentation in English and summary
第16回	
第17回	
第18回	
第19回	
第20回	
第21回	
第22回	
第23回	
第24回	
第25回	
第26回	
第27回	
第28回	
第29回	
第30回	

## 履修上の注意

講読した論文の内容を自分自身の研究・実践に応用することを意識すること。また、ディスカッションでの積極性を重視する。講読する論文の対象者領域は、受講者のニーズに応じて変更する場合がある。



■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

必ず予習をすること。図書館やインターネットで論文検索をし、入手する。各回の授業終了ごとに、英語論文でのキーワードリストを作成し、学期末に提出する。

---

■ 教科書・参考書

ハンドアウトを適宜配付する。

科目名－クラス名

## 卒業論文（原著講読含む）

音楽療法C

## 曜日時限

火 3時限  
木 1時限  
木 2時限

## 担当教員

羽石 英里

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法	定期試験				その他の試験	合計
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
講義	4～	通年	6	評価割合	0	85	0	15	0	100

## 教育到達目標と概要

音楽療法コース4年次必修科目で、専門知識や情報活用能力などを獲得するための科目です。音楽療法に関する先行文献等を踏まえてテーマを設定し、研究計画を立て、データ解析を行い、卒業論文を完成する。学生は音楽療法の理論と技法について4年間学習してきた内容を基礎として、担当教員の指導のもと、自らが取り組むテーマを決定し、その考えを論理的に文章化する。また、その経過や結果を、口頭にて発表する。

## 学修成果

講読した文献の内容を適切に要約、文章化できる。卒業論文を適切なテーマに基づいて論理的に展開し、かつ学術的な書式を踏まえて執筆できる。中間発表会、卒業論文発表会において、研究内容をわかりやすくプレゼンテーションできるようになる。

## 授業展開と内容

第1回	前期のガイダンス 卒論マニュアルの説明、執筆の流れ、口頭発表について
第2回	研究論文の書き方1 文献の検索について1（特別講師）
第3回	研究論文の書き方2 論文の書き方（卒論マニュアル）、テーマの設定について、文献の検索について
第4回	研究論文の書き方3 研究倫理について（昭和音楽大学倫理委員会）、日本音楽療法学会のガイドラインから
第5回	研究論文の書き方4 文献の検索について、文献の引用/参考について
第6回	研究論文の書き方5 音楽療法の様々な研究について
第7回	研究論文の書き方6 テーマの設定、論文の構成やアウトラインについて、データの管理
第8回	研究論文の書き方7 研究の背景・意義について
第9回	研究論文の書き方8 研究の目的について
第10回	研究論文の書き方9 研究の方法について
第11回	研究論文の書き方10 研究の結果について
第12回	研究論文の書き方11 研究の考察について
第13回	研究論文の書き方12 口頭発表について、PPTの作成
第14回	デザイン発表
第15回	まとめ 夏季期間中の研究の進め方について
第16回	後期のガイダンス 中間発表（口頭発表）の準備、要旨の準備
第17回	中間発表の準備2, 要旨（Ⅰ研究の意義/背景と目的、Ⅱ研究の方法、Ⅲ今後の予定）の準備
第18回	中間発表の準備3, データの収集と執筆1：はじめに（序論）の具体的な書き方
第19回	中間発表（※履修上の注意を参照）
第20回	データの収集と執筆2：本論の構成、章立ての具体的な書き方
第21回	データの収集と執筆3：引用文献、参考文献の具体的な書き方
第22回	データの収集と執筆4：図、表の具体的な入れ方
第23回	データの収集と執筆5：中心となる本論の確認
第24回	結果の分析と考察1：結果のまとめ方
第25回	結果の分析と考察2：考察の書き方
第26回	結果の分析と考察3：おわりに（結論）の書き方
第27回	卒業論文提出に向けた準備1：文字数、論理の一貫性の確認
第28回	卒業論文提出に向けた準備2：誤字脱字、参考引用文献の確認※卒業論文提出の日時と提出方法については、ガイダンスにて説明
第29回	要旨提出と卒論口頭発表会の準備：要旨の書式の確認、最終のプレゼンテーションに向けて

**履修上の注意**

テーマや臨床実践の環境等によりシラバスとは異なる進行になることがある。学生は担当教員とよく連絡をとり、1年間の流れを考えて研究を行う。文献講読は積極的・自主的に取り組むこと。4年間の学修の集大成として充実した研究ができるように、地道な取り組みを期待する。卒論の提出にあたっては卒業論文のマニュアルをよく読んで提出すること。提出日、発表の日程は当初の予定から変更することがあるので、各自責任をもって掲示を確認すること。

**授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法**

指示されたことだけではなく、自ら考え、担当教員に適宜指導を仰ぎながら、積極的に論文執筆に取り組むこと。文献の検討および、執筆に少なくとも週240分以上取り組むこと。提出された課題について、各担当からコメントする。

**教科書・参考書**

適宜提示する。

科目名－クラス名

## 音楽芸術運営特別演習②

## 曜日時限

月 5時限

## 担当教員

羽石 英里

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験 授業内小テスト	合計	
				定期試験 評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出			成果発表
その他	2～	通年	4	評価割合	0	50	0	50	0	100

## 教育到達目標と概要

大学院における学修の仕上げとしての修士論文を執筆にむけて、論文を作成することを目的とする。文献・資料の検索や分析方法などの研究技術を高め、論文の中間発表、口頭発表に向けて指導教員と相談しながら、準備をすすめる。指導はゼミ形式で行われ、手順にそって論文を完成させる。

## 学修成果

論文において、その内容の論理性が認められる。また、その形式が学術的に適切であることが認められる。その内容の社会的意義や専門分野への貢献が期待できる。その内容に新たな視点（ノイエス）が認められる。

## 授業展開と内容

第1回	ガイダンス
第2回	研究の背景と意義（1）：背景について
第3回	研究の背景と意義（2）：意義について
第4回	先行文献の検討（1）：国内の先行文献 ① 音楽療法の領域の文献
第5回	先行文献の検討（2）：国内の先行文献 ② 日本音楽療法学会の先行文献
第6回	先行文献の検討（3）：国内の先行文献 ③ 関連領域の文献
第7回	先行文献の検討（4）：国外の先行文献
第8回	方法（1）対象者の確認、倫理の問題の確認
第9回	方法（2）方法の設定（計画に沿った実施の確認）
第10回	方法（3）測定法などの確認
第11回	データ分析（1）：データの収集開始
第12回	データ分析（2）：データの収集確認
第13回	データ分析（3）：収集されたデータの整理
第14回	データ分析（4）：収集されたデータのまとめ
第15回	前期のまとめ
第16回	中間発表準備（1）、データのまとめ
第17回	中間発表準備（2）、データのまとめ 表、グラフへの書き方、発表の確認
第18回	結果（1）：結果の書き方について
第19回	中間発表
第20回	結果（2）：結果のまとめ
第21回	結果（3）：結果から考察への導き方
第22回	考察（1）：考察の書き方とまとめ方
第23回	考察（2）：考察の再考
第24回	考察（3）：考察の再考（研究の目的とのつながり）
第25回	文献表その他（1）：論文の校正
第26回	文献表その他（2）：文献の番号、誤字脱字等の校正
第27回	論文全体の最終確認：提出の準備と確認
第28回	本発表準備（1）：口頭発表に向けてPPTの準備
第29回	本発表準備（2）：PPTのリハーサル
第30回	本発表準備（3）：口頭発表の最終調整

#### 履修上の注意

テーマを設定し、研究の目的を常に意識しながら論文執筆を行う。スケジュールや順序は、個々の学生の研究テーマや臨床の環境等によって変更される。このクラスでは、学部生の「卒業論文」の内容とも連動しながらおこない、中間発表、口頭発表の日程および時間についても同様とする。但し、これらの日程は変更となる場合があるので、掲示等で必ず確認をすること。

---

#### 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

各自の研究内容に応じて、各段階で課せられた課題を着実にこなすこと。  
文献の検討および執筆に少なくとも週240分は取り組むこと。  
課題について、各担当からコメントする。

---

#### 教科書・参考書

適宜指示する。

科目名－クラス名

## 音楽芸術運営基礎演習

## 曜日時限

集中

## 担当教員

羽石 英里

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
演習	1～	前期	1	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
				0	0	0	100	0	100

## 教育到達目標と概要

音楽芸術運営に関する修士研究の方法論を体得するため、以下をおこなう。

- (1) 研究遂行に必要な基礎知識（研究の手順、情報・文献・資料の収集・活用法、研究計画の立て方等）を確認する。
- (2) 論文作成に必要な日本語の適切な運用、コンピュータの活用、論理的な思考を、実践的に体得する。
- (3) 思考と認識の種々の形式を概観し、それにより思考や認識を相対化する能力を養う。
- (4) あるテーマについて可能な研究手法を検討・議論し、自らの研究を客観的に評価する力をつける。

## 学修成果

- (1) 研究目的に適切な手法を選択し、研究計画を立てることができる。
- (2) 情報・文献・資料の収集、研究計画の立案、研究成果の発表など、研究推進に関する基礎的な知識を有する。
- (3) 論理的に正しく思考することができ、それを適切な言語運用により表現することができる。
- (4) 自らの研究の学術的な位置づけと社会的な意義を客観的に評価することができる。

## 授業展開と内容

第1回	研究とは――研究に求められること
第2回	研究とは――問いを立てる、研究の目的
第3回	研究とは――問い・研究目的に応じた研究手法
第4回	研究とは――先行研究の整理と批判
第5回	研究とは――文献・資料の検索・収集、引用
第6回	思考方法――クリエイティブ・シンキングとロジカル・シンキング
第7回	思考方法――論理学、言語と認識
第8回	調査方法――質的調査と量的調査、データ分析
第9回	調査方法――文献調査とフィールドワーク
第10回	認識の方法――観念論と实在論
第11回	認識の方法――言語論的転回
第12回	認識の方法――思考の枠組みの相対化（エピステーメー、パラダイム）
第13回	研究成果の発表に向けて――論理的な言語運用、データ整理・提示
第14回	研究成果の発表――学会等での発表、ストーリー、スライド
第15回	研究成果の発表――論文執筆
第16回	
第17回	
第18回	
第19回	
第20回	
第21回	
第22回	
第23回	
第24回	
第25回	
第26回	
第27回	
第28回	
第29回	
第30回	

### 履修上の注意

自らの研究を客観的に評価することは、適切な研究手法の選択、ひいてはより良い研究の実施に繋がる。本講はそのために必要な基礎的な知識と能力を体得することを目的とする。履修者の授業への積極的な参画を期待する。

---

### 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

授業で紹介した文献に必ず目を通し、各人の仕方で理解しなおすこと（計30時間以上）。課題（成果発表）に対するフィードバックは授業時間内におこなう。

---

### 教科書・参考書

梅棹忠夫『知的生産の技術』、岩波新書、1969年。  
佐藤望（編著）『アカデミック・スキルズ』第2版、慶応義塾大学出版会、2012年。  
酒井聡樹『100ページの文章術』、共立出版、2011年。（以上、いずれも参考書、副題省略）

科目名－クラス名

## 博士特別運営研究①

## 曜日時限

## 担当教員

他

羽石 英里

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計	
				定期試験	筆記・実技	課題提出	作品提出			成果発表
演習	1～	通年	2		0	50	0	50	0	100

## 教育到達目標と概要

「博士研究指導」においてオーソライズされた研究計画に従い、音楽療法研究とその関連分野に関する総合的な知識を踏まえて、実践的研究を行う。各自の主題に沿った基礎調査、資料・データの蒐集とその解析、資料批判・データ批判、研究の方法論の策定等を行い、年度末の研究発表に向けて成果をまとめる。

## 学修成果

音楽療法研究全体を見渡し、その種類や多様性、研究理念に関する基礎知識を調査・分析した上で、自らの研究のテーマに沿った研究の方法論を策定できる。当該研究テーマにおける方法論の妥当性が、年度末の研究発表において説得力をもって示され、博士論文執筆への準備ができる。

## 授業展開と内容

第1回	オリエンテーション：講義の概要と進め方の確認
第2回	講義～基礎調査、資料・データ蒐集の視点と手法及び研究倫理について
第3回	講義と討論～音楽療法研究の種類と分類法に関する基礎調査と事例 ①
第4回	講義と討論～音楽療法研究の種類と分類法に関する基礎調査と事例 ②
第5回	発表と討論～音楽療法研究の背景となる諸理論と研究方法に関する基礎調査と事例
第6回	発表と討論～音楽療法研究のテーマと研究手法の変遷についての基礎調査と事例①
第7回	発表と討論～音楽療法研究のテーマと研究手法の変遷についての基礎調査と事例②
第8回	発表と討論～国内外の学会誌に見る研究テーマの現状分析と今後の展望
第9回	まとめ 音楽療法における研究理念、および研究テーマ、研究手法の変遷と現状
第10回	発表と討論～量的研究のテーマと研究手法についての検討と事例①
第11回	発表と討論～量的研究のテーマと研究手法についての検討と事例②
第12回	発表と討論～質的研究のテーマと研究手法についての検討と事例①
第13回	発表と討論～質的研究のテーマと研究手法についての検討と事例②
第14回	発表と討論～その他の研究法とテーマおよび手法について
第15回	学期末の研究発表に向けてのプロポーザル提出および中間発表
第16回	オリエンテーション：後期の講義概要と進め方の確認
第17回	講義～教育・福祉・医療の施策と音楽療法の位置づけ 概説
第18回	発表と討論～教育・福祉・医療の施策と音楽療法の位置づけ
第19回	発表と討論～音楽療法と関連領域の研究手法の分析①
第20回	発表と討論～音楽療法と関連領域の研究手法の分析②
第21回	発表と討論～音楽療法と関連領域の研究手法の分析③
第22回	発表と討論～音楽療法と関連領域の研究手法の分析④
第23回	発表と討論～音楽療法と関連領域の研究手法の分析⑤
第24回	発表と討論～音楽療法と関連領域の研究手法の分析⑥
第25回	発表と討論～音楽療法と関連領域の研究手法の分析⑦
第26回	発表と討論～音楽療法と関連領域の研究手法の分析⑧
第27回	発表と討論～音楽療法研究法の体系化に向けて①
第28回	発表と討論～音楽療法研究法の体系化に向けて②
第29回	全体のまとめ
第30回	研究論文提出と発表（プレゼンテーション）



履修上の注意

自らの専門性を高めるための実践的な授業であり、資料やデータの収集・分析をしたうえで、課題検証する時間となる。授業の際には、自らの分析結果の提示に努めること。

---

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

自主的な学習成果のまとめを講義ごとに積み重ねていくこと。

---

教科書・参考書

特になし

科目名－クラス名

**博士論文演習①****曜日時限**

他

**担当教員**

羽石 英里

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
演習	1～	通年	2	0	70	0	30	0	100

**教育到達目標と概要**

「博士研究指導」においてオーソライズされた研究計画に従って博士論文を執筆する。  
論文執筆に向けた第一段階として、多様な資料やデータを収集、分析し、テーマ設定を明確にする。  
研究テーマに関する先行研究を客観的・体系的に検証する。  
テーマに関するトピックについて論文を執筆し、大学の紀要等に投稿することが望まれる。

**学修成果**

正確なデータの収集と分析、多様な資料の読み解きを通じて、専門分野に関する幅広い知識と独自性を伴った視点を養い、それを言語化できるようになる。  
投稿論文等の執筆に必要な能力を身につけられる。

**授業展開と内容**

第1回 全30回の授業の進め方は別紙記載のとおり

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

第16回

第17回

第18回

第19回

第20回

第21回

第22回

第23回

第24回

第25回

第26回

第27回

第28回

第29回

第30回

**履修上の注意**

研究進捗・論文執筆状況を報告できるよう、各回、準備をして臨むこと。

**授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法**

小論文の執筆を積み重ねること。プレゼンテーション能力の向上に努めること。

授業（ゼミ）に向けた準備を必ずおこなうこと（週あたり60分以上）。  
フィードバックは授業時間内におこなう。

---

#### 教科書・参考書

授業で検討、適宜指示をする。

## 2022年度(後期・通年)「学生による授業評価アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード：1414 教員名：羽石 英里

### 1) 評価結果に対する所見

今回は、すべて5の評価であった。これは、一人一人への対応が行き届いたことによると思われる。ギターは人によって授業開始の時点で経験が異なるため、その学生の経験に合わせてどのくらい上達したかを評価しているので、やりがいを感じることができると思う。

### 2) 要望への対応・改善方策

今年度からはTAも参加するので、新たな視点も授業にとり入れていき、よりよい内容にしていきたい。

### 3) 今後の課題

同上

以 上